

令和 5 年度地方創生事業実績

交付金事業概要（1）

事業名	子育て世代の住まう町～真鶴町定住推進事業～				
事業期間	令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月（3 ヶ年事業 2 年目）				
R5 年度事業費	16,554 千円（うち国庫補助 8,277 千円）				
事業目的	子育て・教育環境の整備を真鶴町の柱事業の一つとして取り組み、とりわけ子育て世代が安心して過ごし生活できる町を作り上げ、子育て世代の転出抑制及び出生数を増加させ、活力ある地域・活力ある人口構成の構築を目指していく。				
事業概要	近隣自治体にはない特色ある子育て・教育環境をデジタル技術も活用しながら整備することにより、子育て世代の転出抑制及び出生数増加を図り、また真鶴町で育ち教育を受けた若年層が町に残り、仮に進学や就職の際に転出したとしても、結婚や出産を機に当町に戻るという循環を構築していく。				
KPI		R4 増加分	R5 増加分	R6 増加分	増加累計
①教育プログラム参加者の経年増加率	目標値	—	10%	10%	20%
	実績値	—	11%		
	達成率	—	110%		
②公民連携事業による課題解決件数	目標値	1 件	1 件	2 件	4 件
	実績値	3 件	3 件		
	達成率	300%	300%		
③町ホームページ閲覧回数増加	目標値	10,000 回	10,000 回	10,000 回	30,000 回
	実績値	32,421 回	未確定		
	達成率	324%	達成見込み		
④一時保育、子育て学級、教育プログラム参加者の満足度	目標値	10% (70%)	10% (85%)	10%	30%
	実績値	15% (75%)	▲39% (46%)		
	達成率	150%	61%		

※（）内は満足度実数を記載

令和5年度具体的施策・実績（1）

①誰一人取り残さない子育て環境の整備に向けた実証実験		
事業内容	保育所を利用していない家庭、移住してきたため近くに親戚や知り合いがいない家庭、障がい児を育てている家庭など地域全体で見れば決して多数派とは言えない家庭についても必要な施策の実験的实施、需要の大きさや効果の検証結果を令和7年度に新たな建物での開設を検討している子育ての総合拠点（子育て世代包括支援センター）において実施する事業内容に反映させ、SDGsの理念に基づく「誰一人取り残さない」子育て施策を形成していく。	
（1）一人一人に寄り添う子育てケアの構築		2,419,000 円 (執行見込 2,513,000 円)
	一時保育事業と子育て相談事業（一時保育場所での相談＋訪問相談）を連動させた子育てケア事業を実施する。保育所を利用していない家庭や近年増加している親類縁者が地元にはいない移住者家族等、一時的な預け先や子育ての悩みに困っている家庭に寄り添う支援を推進する。	
実績	2024 年 2 月 29 日現在、299 名の利用があった。1 回あたり 3 時間の利用を限度として預かり、合計 120 日、880 時間の預かりとなった。	
（2）子育て学級の推進		50,000 円（執行 50,000 円）
	子育てについて考え学習する場や不安を抱えがちな子育て世代の交流の場を設けるため、子育て学級事業を実施する。	
実績	親子わらべ歌教室（2 回）：11 名 リトミック体験教室（2 回）：40 名 読み聞かせ講座：27 名	
（3）誰一人取り残さない保育の推進		1,458,000 円 (執行見込 460,463 円)
	全ての保育園児が障がいの有無によって分け隔てられることなく保育所サービスを受けることができるようにするため、発育・発達上の配慮を要する児童又は障がいを有する児童（要保護児童）に対応する専門保育士を雇用する保育園への支援を実施する。	
実績	年度当初から 1 名の発育・発達上の配慮を要する児童を受け入れ、2024 年 3 月 6 日現在、合計 59 日、386 時間の保育所利用となった。	
（4）子育て支援に関するニーズ調査		1,690,000 円 (執行見込 1,606,000 円)
	町民が子育てしやすい環境や地域福祉環境を整えるため、総合的なニーズ調査を実施する。	

実績	アンケート調査票を 500 世帯に配布し、390 通回収。その内、388 通が有効であった。回収率は 78%。アンケート調査項目は、「世帯のことについて」「就労について」「子育て支援について」「ヤングケアラーについて」「相談や情報の入手先、要望等について」等を聞いた。また、意見交換会を 3 回実施した。			
事業効果				
子育てケア事業について、保育所を利用していない家庭や移住してきて頼れる人がいない方たちにとって需要が高く、多くの利用があった。今後もこの需要に応えるべく、来年度に向けて検討していきたい。 誰一人取り残さない保育の推進について、今年度は対象児童の園の利用が少なかったものの、加配がなくてはならないものであった。多くの子どもが園を利用できるように、来年度に向けて体制を整えていきたい。 子育て支援に関するニーズ調査について、アンケート調査で具体的に現状を把握することができた。また、意見交換会を実施して個別に意見を聞くこともできた。今回把握できたことを、次年度に向けて検討していく。 子育て学級で実施した各教室については、子育て世代の交流の場づくり、子育てについて考え、学習する機会の創出となった。				
対応 KPI	④一時保育、子育て学級、教育プログラム参加者の満足度	前年 (75%) から 10%増	R5 実績	▲39% (実績 46%)

②「地域に開かれた公共施設」の連携による真鶴らしい教育プログラムの構築	
事業内容	美術館・博物館・図書館・公民館が「まなびの場」と世代を超えた「人と人をつなぐ場所」となるよう事業を組み立て、地域に開かれた公共施設による真鶴らしい教育環境を整備する。また、事業推進においては町民の主体的な参加を促し、地域と協働して真鶴らしい教育プログラムを磨き上げていく
(1) 地域資源が育む真鶴らしい教育プログラムの構築	3,100,000 円 (執行 2,370,000 円) ※(1)～(3)合算
	美術館・博物館・図書館・公民館において、それぞれの館または複数の館が連携して、町民等とも協働しながらアートや自然について学習を深める講義やワークショップ、体験学習等のプログラムを実施する
実績	陶芸教室：のべ 98 名、夜のプラクティン観察会 47 名、アート教室 27 名、アドベントカレンダー作り 16 名、クリスマスケーキ作り 15 名、シェードランプ作り：50 名
(2) 出張展覧会、対話型鑑賞会の実施	
	美術館や博物館の展示品を館外に持ち出し、学校やコミュニティスペースなどで出張展示や学芸員等との対話型鑑賞会を実施する

実績	海中写真展を 3 箇所で開催（町民センター、コミュニティ真鶴、図書館）			
（３）町民主体型事業の実施				
	町民による展覧会出品作品の選択や解説等、町民主体型事業を実施する			
実績	シェードランプ作り教室で制作した作品を博物館、公民館で展示し、併せてチェロ演奏者を招き、チェロ演奏会を開催			
（４）教育プログラムのブランディング			2,762,000 円（執行——円）	
	美術館と博物館の連携ポータルサイトを作成し、（１）～（３）のプログラム等真鶴らしい教育コンテンツとして事業展開を写真や映像で記録し、取りまとめたものの発信など町内外に真鶴の教育を発信していく			
実績	ポータルサイト構築の取りやめに伴い、事業実施なし。			
事業効果				
社会教育施設が連携して事業を行うことで、それぞれの館の特色を前面に出し、表面上の学習・体験にとどまらず、学びを深める事業とすることができた。				
対応 KPI	①教育プログラム参加者の経年増加率	前年から 10%増	R5 実績	11%増

③公民連携事業による子育て・教育環境の整備	
事業内容	町民や町内事業者、サテライトオフィス進出企業等の「民間の力」と協働して地域課題解決型事業を実施する。
(1) 公民連携による子育て・教育事業の推進	1,243,000 円(執行 1,234,520 円)
	町民や町内事業者、サテライトオフィス進出企業等の「民間の力」と協働して地域課題解決型事業を実施するための補助金を交付し、オープンイノベーションで地域課題を公民連携で解決していく「持続可能な地域づくり」のスタイルを構築し、課題解決と共に真鶴町の創生を担う人材・主体の育成・活性化を実現していく。
実績	補助金採択事業：1 件(サテライトオフィス進出企業) 「「MANAZURU MIKANTable」作りワークショップ」 子ども達の学びと地場産業(みかん栽培)の歴史や文化を後世に残すことに焦点を当て、農園の見学や使われなくなった木製みかん箱を活用したテーブル作りワークショップを実施。地域の子ども達がみかん栽培の現状や課題を学んだ他、SNS 等の発信により話題を呼び、ワークショップは農園と連携しながら今後も採択団体の独自事業として継続される。
(2) 公民連携による公園づくり	500,000 円(執行見込 500,000 円)
	子育て環境の整備に向けて、町内にある都市公園や展望公園、児童公園等の公園の利活用や魅力化向上(DIY によるあそび場づくりの開発等)のための補助金を交付し、町民等と協働して推進する。

実績	補助金採択事業：2件（町民団体2団体） ①「あそび場整備と竹・木工作～公園をつくろう公園でつくろう～」 荒井城址公園の活用と魅力向上を図るため、竹林や樹木を有効利用した遊具や道具の工作等ワークショップを定期開催し、公園に賑わいを創出。公園での多世代交流や場所への愛着を生んだ。 ②「子どもたちが作る「EUREKA PARK」どんぐり公園改良計画」 大ヶ窪ちびっこ広場（どんぐり公園）の魅力再発見を図るため、子供たちと花壇や遊び道具を作るワークショップの開催、どんぐり公園の魅力をまとめたガイドブックを作成し、子どもたちに今後も足を運んでもらうきっかけ作った。			
(3) デジタルプラットフォームの活用		1,320,000 円（執行 1,320,000 円）		
	事業を共同で推進するデジタルプラットフォームを整備し、町民等から意見・アイデア募集、双方向型の意見交換、事業進捗の見える化を行うことが出来る情報発信等を実施し、協働推進者の輪を広げ共創する環境を醸成する。			
実績	昨年度に引き続き、公民連携による取組に対する補助金採択事業について、事業実施団体の取り組み紹介記事や事業進捗、イベント参加案内等を掲載し、真鶴町の公民協働について周知と新たな担い手の創出の促進を行った。			
事業効果				
子育て・教育の地域課題解決に1件、公園づくりに2件の民間主体事業が立ち上がり、地域の子供たちが地元について学び体験し、愛着を深める一助となった。実施事業について、自走による事業継続を行う採択団体もあり、公民協働の新たな担い手が創出出来たといえる。 デジタルプラットフォームについても事業の周知の一助となった。				
対応 KPI	②公民連携事業による課題解決件数	1 件	R5 実績	3 件

④情報発信力の強化 【デジタル技術の活用】	
事業内容	上記３事業を中心とした真鶴町の定住施策の見える化やプロモーションを図るため、広報力の強化・多様化を実施する。
（１）新たな発信力による定住対策の見える化	2,011,000 円（執行 1,983,000 円）
	各事業や町の魅力をより広く発信するため、町公式ホームページを柱に、チャットボット機能導入による利便性向上、町公式 Twitter 及び LINE の立ち上げとホームページとの連動発信、紙面広告及び WEB 広告の実施等、情報発信機能を全面的アップデートする。

実績	昨年度、町ホームページ記事の更新が行いやすくなるよう改修したシステムは問題なく運用されている。チャットボット機能については今年度で終了し、LINE 連携機能を強化していく方針を固めた。 また、民間バス会社の車内広告や新聞、Web 等への広告掲載を行い、町の移住施策について情報発信を行った。				
事業効果					
各種広告により、お試し移住体験事業を主として真鶴町の移住定住施策について広く周知することができた。町ホームページについては今後さらに見やすいサイト作りを検討していく。					
対応 KPI	③町ホームページ閲覧回数増	10,000 回増	R5 実績	達成見込み	

交付金事業概要（２）

事業名	「新たな日常」を見据えた県西地域活性化プロジェクト展開事業				
事業主体	神奈川県（連携自治体：県西２市８町）				
事業期間	R5 年４月～R6 年３月（３ヶ年事業３年目）				
R5 年度事業費	195,739 千円（うち真鶴町分 3,300 千円・国庫補助分 1,650 千円）				
事業目的	県西２市８町について、With コロナ時代の社会変化に対応しながら、観光業などの特色ある地域産業を活性化させて地域で働く場所を確保するとともに、住む地域としての魅力を向上させ、アピールすることにより、外からの移住を呼び込み、あわせて住民の定住志向を高める。				
事業概要	真鶴町では空家対策を実施。2018 年実態調査の時点で空き家は 568 件あり、そのうち約 1/4 に該当する 148 件が周辺に悪影響を及ぼすことが懸念される特定空家等候補となっており、改善が必要となっている。空き家を通じた移住・定住の推進による課題解決に向けて、住民協働による空き家バンクの推進や地域活性化、事業を通じた住民や移住者の雇用の場の創出等を目指していく。				
KPI（真鶴町分）		R3 増加分	R4 増加分	R5 増加分	増加累計
①空き家バンク事業によるマッチング件数	目標値	３件	３件	３件	９件
	実績値	４件	７件	６件	17
	達成率	133%	233%	200%	188%

令和 5 年度具体的施策・実績（2）

①移住受入のための空き家利活用				
事業内容	移住者の受入先として活用を図るため、空き家をリノベーションするための設計や空き家バンク制度の運営を行う。			
(1) 空家バンク事業		3,300,000 円 (執行 3,299,896 円)		
	令和元年度策定の「真鶴町空家等対策計画」において把握している空家 568 件を中心に、空き家所有者と空き家利活用希望者を繋げる空き家バンク制度や町の PR 業務を委託した。			
実績	空家バンクによるマッチング件数：売却 2 件、賃貸 4 件 真鶴町における空家等の利活用と適切な管理を促進するため、空家等の提供希望者と利活用希望者を繋げる空き家バンク業務及び情報発信業務を一般社団法人真鶴未来塾に委託し、6 件の物件が契約成立となった。委託事業者による町民目線での SNS を通じた情報発信も好評であり、移住促進のターゲット層である町外の子育て世代に対して訴求力のある内容となっていることから、空き家バンク利用登録者が延べ 200 人を超えるなど、制度の周知が効果的に図られた。			
事業効果				
真鶴町内には 568 件以上の空家が存在しており、空家対策が喫緊の課題となっているところ、5 件の物件について契約が成立し利活用が図られることとなった。また SNS による情報発信や空き家勉強会の実施を通して、町内・町外を問わず空き家バンク制度の周知、空家に対する意識向上に寄与した。				
対応 KPI	①空き家バンク事業によるマッチング件数	3 件	R5 実績	6 件